

22  
17  
24

三七全傳  
南柯夢  
五

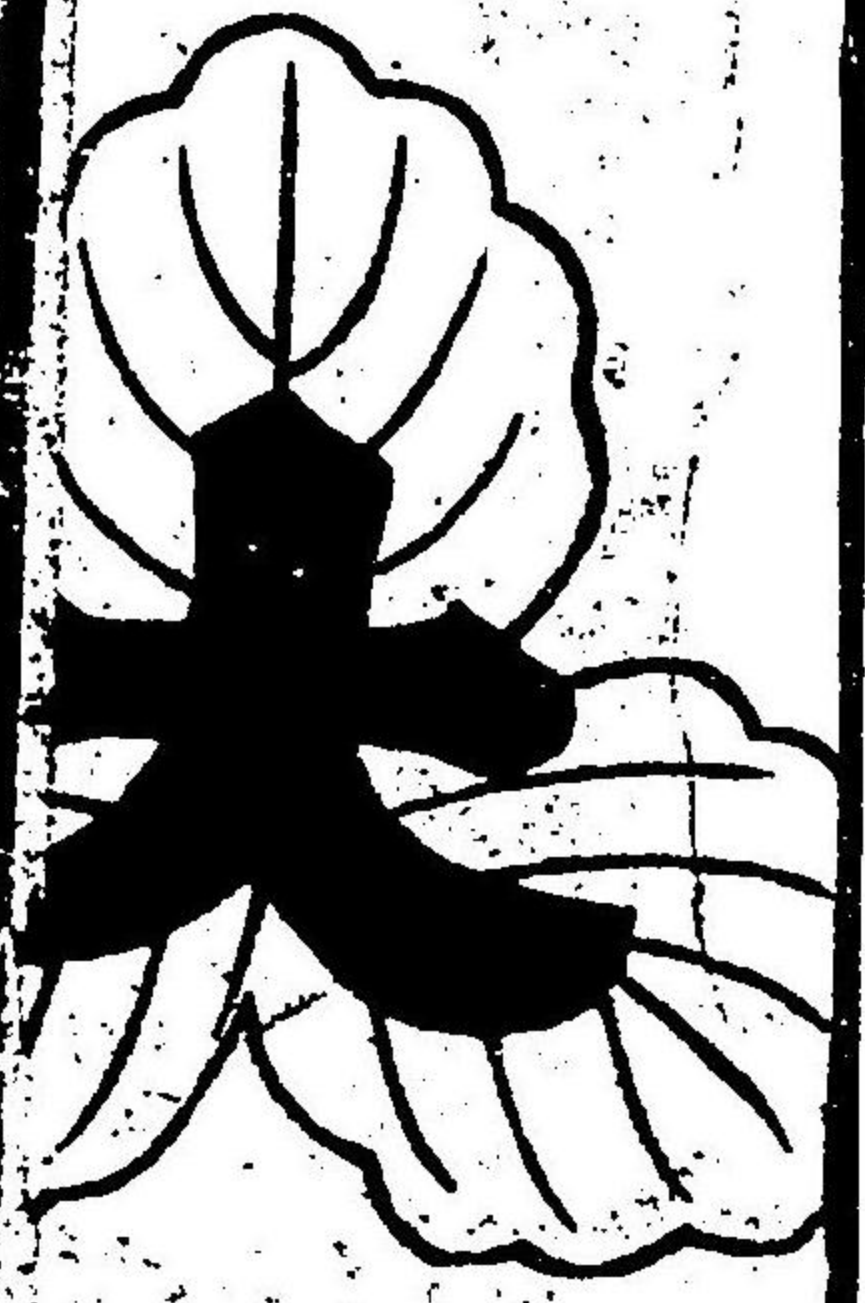
南 柯 夢

笠屋之勝亦根半七  
節操全傳

第五ノ卷

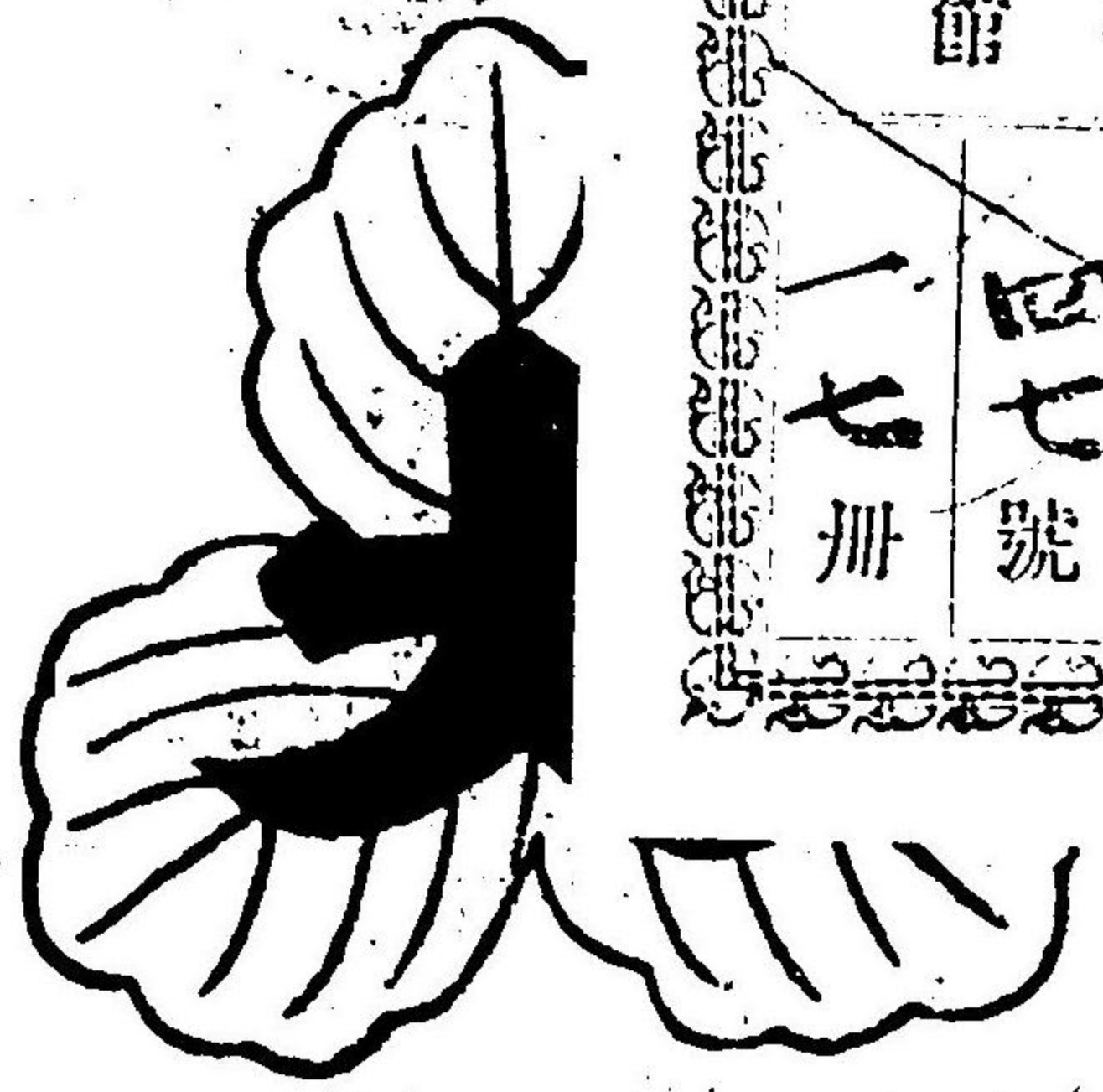
編者曲亭畫隱北齋

新研第子



東 京 圖 書 館

一 七 冊	四 七 號	二 六 架	小 説 類	和 書 門
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------



明治十年交換

東都 曲車馬琴編及

羈後の病の上



一昔世の客店ハ、驛稍盡然と云く、且大に家なれ  
の生茂る。埋と井の車とも。身上久しくまひりり、細代天井ハ  
中々、煤を彩色壁の腰張悉利く。長押より月を引く。  
馬車、席薦と云く、切せ。藁を細とせ。故事もあはれ  
朽く。絃釣、琴も似く。それハ、夜を明す。  
家の廻りの後、或ハ、津松茶室の男の童。囉奇物、物の  
果より脱る。訖声と云く。小曲子、一々、ほめられ、夕の











良人  
音病

秋  
貴人  
三



犬



三



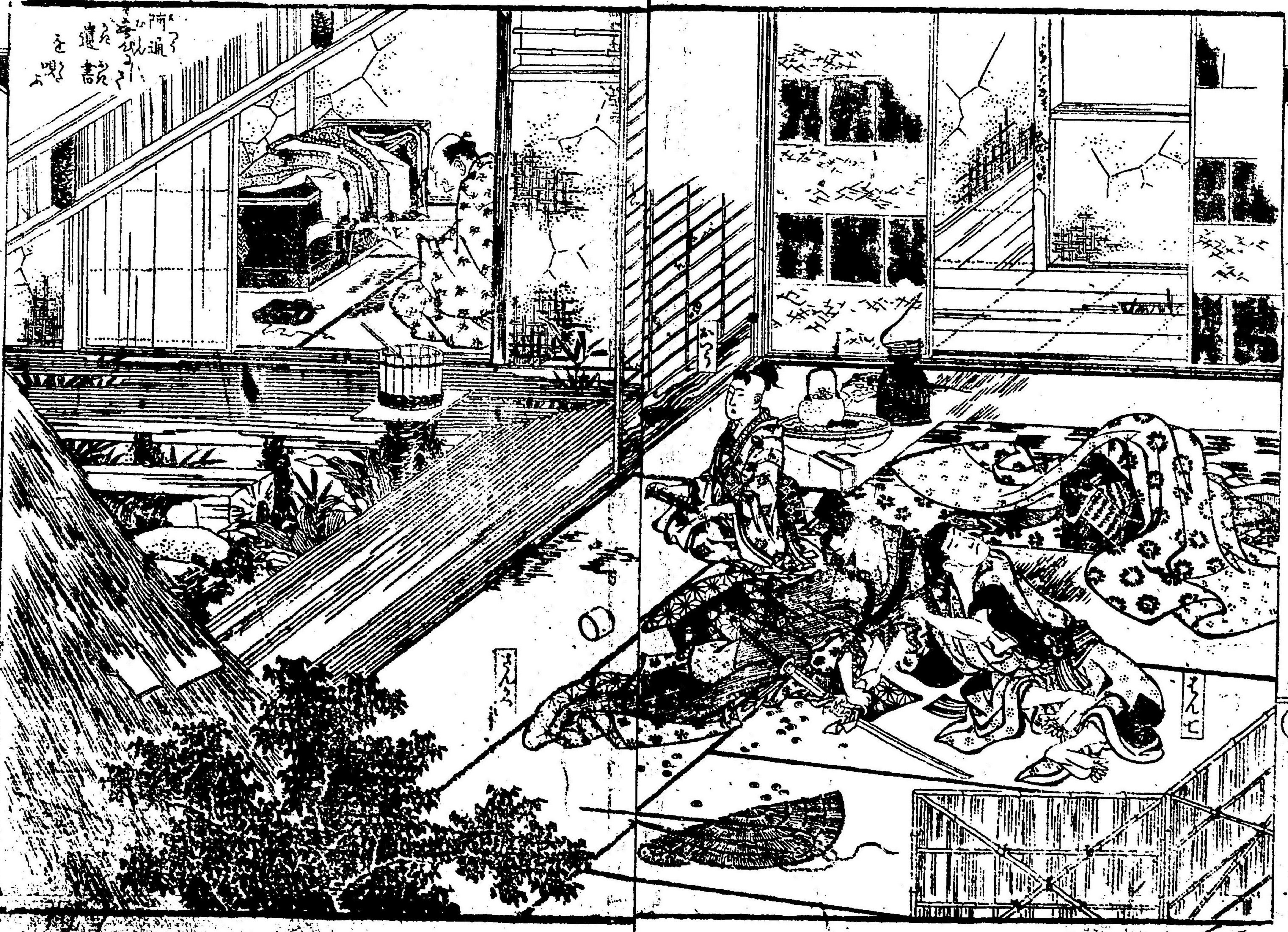




んあめごころゆりあらざる。故三味線の張糸未ぬ弦り一軒よの露ぬり  
 くと透一とちるがる。夕びは腫を催さび父の女児を引奇つ。ふん記  
 忘るるよ。唄の母のりをり。誓もえん歎たもせん常の暮る。二味  
 とらふよ。今宵の二更の移もあし涙きく来よ。ふざつたれど  
 児蹠の膝を枕し睡顔。ほび覚一ともあきぬ。かぶの衣をうぐ  
 とえればのりハ壮士の勇たさるも思愛よ。あうらあはの涙あり且して  
 勝うらつと。噫とれあつらひひひ。おまのあよ捨一命と妻の  
 絆とれと。あまやう。捨一と。おまのあよ捨一命と妻の  
 が恨も散父の怒も解ぬべ。とらふよ。三味は夫のなよを食して  
 頼とらぬ公操ハ比稀ある。貞女のあま。家を失ひ今宵又。わん  
 捨らる。夫婦一世の別と。うらたうらたう。おまのあよ捨一命と妻の

面影を忘るる。年月物の哀れをよめる。悲しうらたう。わん  
 蛇負もあつちたさる。母よ孝行盡せ。女才の候子。うらた  
 小のうら。唄。秋も今。親の末期の役も。もも過世の業因  
 め。うら。も教へる。唄。あをま忘れと。寝顔を眠く。暇を  
 膝を引親子戯ても。湯ても昔忘れぬ。雨の父の像見の乱焼たれぬ。武  
 の魂と押載たて。扱もあら。襟うらうら。中か。腹。突まんとす。皆  
 一も。同。近。く。は。あ。る。足。音。よ。と。ら。二。味。が。ゆ。り。と。わ。ん。あ。ら  
 ら。う。た。の。る。の。障。ふ。と。用。と。う。暗。う。あ。つ。と。ど。さ。り。あ。ら。う。ら。ら。  
 可。と。笑。み。声。を。同。ハ。甲。夜。の。歌。そ。一。夜。安。と。恨。も。ち。う。ら。た。う。  
 らぬ隙も。と。む。と。く。え。う。ら。あ。ほ。と。わ。の。光。よ。不。圖。目。を。覚。と。推。見。  
 ぼ。あ。と。声。よ。り。れ。と。や。二。味。の。啼。く。走。り。ゆ。り。つ。侍。と。え。と。吐。息。と。内。





所  
 通  
 遺  
 記  
 六  
 鳴

三

七

田毎の月の歌もさうさうなつらなつらな十隈川橋が袖の神  
 も締ぬえよとて契にほふるが獄もさうさうなつらなつらな  
 さと久米路の橋筑路の湖氷るとも只都井よぬらふ東の  
 川湯の東の向も寐覚の床の寝覚えよもこのちるさうさうなつらな  
 さうさう本とことと暮あふらぬあつらぬさうさうなつらなつらな  
 さうさうとさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 まる暮科の言の紫あつらぬとあつらぬと遺せし。

とうとう果もばニ味線もこの撥をぞあつらぬさうさうなつらなつらなつらな  
 悲しなる限もさう。病もさうさうなつらなつらなつらなつらなつらな  
 理もさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 一の猪が。あつらぬさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 荒たぬりしも夫の

必死を救へとて神の守れぬいん殺へた。とうとう口鏡凍ても暗  
 てもさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 中もさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 んが推子いけりともさうさうなつらなつらなつらなつらなつらな  
 此もさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 る玉の緒も今や断んとええよりさうさうなつらなつらなつらなつらな  
 押もさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 られをええよよ甲夜よ歌り旅客いさ松平さうさうなつらなつらなつらな  
 けいさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな  
 言答つらなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな

西騎旅の宿の下

このさうさうなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらなつらな

女児が物ざりよとけけもるびのあめあめのれい美松平三郎のちりちりよ今宵の  
 の駿路よとこれよとて一絃歌を賣彼此の門よま在女子あり美り  
 面をめぐられどその声をやなくよりが女児よ似たりとれとていひさぐ  
 ちりあいの回びとよまくりとて空規ふよ果してそれとて飛ちりて  
 めりうとてまづ其身が送言の送成すんかよ名生りもありぐらの三味線め  
 まりまのまのまらめらりく操持と五十二なるか老かまよとて橋の狭い通小入  
 弾もありのり愛り一死声をすさへ狭の種悲びのゆるる空欄柱の狭のま  
 度も定くむとて戻る糸巻よ音締も混る真交とて思愛の坊くけく  
 其身が自害をひた宙の調子らびの不覚者あくはすた縁をく  
 東の果さるぞ呻吟も三勝が往方とさるまほよとてさるまほよとて歌  
 ありていづる堤月と殺とてとていひも果どつと空可く。矢庭よ女を

棄ひたりすく鞆よあめあめと三勝よ通子一つりすく傳よとて平のい  
 三條河原よとて其身を人よ棄ひ去られ一とれももも脚平足平を  
 殺したる罪脱びてとてその夜洛を逃まて四年あまりのを奈良屋と  
 て高天神の茶店よとて領主の代茶うとておぼれた武士小割龍とて  
 大佛のほとよとて到りてそれを披ひかぢひもりて飯の中よ一包の金を埋  
 三勝が身價と字一たりとの為体りと怪一けれバ縁故をさるまほとて  
 とて豫る三勝よ由縁あつとてすく五條よいめとて赤根守六ねひのき園  
 里人答る。彼人よとての思はずとていひの洛よありとて三勝とてあつとて  
 逐電とて罪よとて永く出仕をせしとて直執事あめとていひとて  
 至るこれあつとて。三勝を棄ひ去たるハ結髪のみ夫とてさるまほあり  
 ともあつとてれハ方人也。徒と挑み争ひ人を殺すと大罪を犯せしとて









出更し西を存くまゝの。十日あがりし。浪速に到る長所。ゆゑ  
 小指を削りて。そのまゝの。勝を容れ。何れも。活業よせん。と。髪を  
 予三の原。未。併。復。の。る。よ。孰。髪を削りて。入。髪。と。り。め。の。を。削。り。て。毎。日。は。彼。出。し。て。  
 ろ。れ。を。鬻。ぐ。よ。改。髪。を。方。す。よ。す。り。究。る。と。買。入。も。多。う。り。り。の。ち。三。務。又。改。髪。と。り。の。假。髪。を。入。り。て。予。三。と。  
 とも。よ。これ。を。削。り。て。入。髪。の。改。髪。の。と。め。れ。改。髪。の。髪。の。  
 髪。を。掩。る。れ。魏。官。は。蟬。髪。を。製。す。め。緑。雲。撮。く。て。晚。髪。を。  
 梳。る。が。婦。女。子。大。子。殊。重。し。養。髪。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。  
 縛。号。し。て。長。河。の。養。髪。と。い。ふ。は。び。り。の。ま。る。の。ま。る。と。い。ふ。  
 の。入。り。の。隠。養。屋。と。世。の。の。す。て。も。の。外。は。商。人。と。い。ふ。

住。が。又。住。の。岸。の。姫。松。年。預。御。達。假。髪。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。  
 玉。櫛。等。と。い。ふ。と。近。く。浪。速。津。を。な。り。け。も。皆。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。  
 小。三。務。が。身。價。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。活。業。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。  
 雜。費。を。削。り。た。れ。ば。二。三。十。金。よ。る。と。い。ふ。は。贖。ふ。よ。る。と。い。ふ。は。二。倍。す。を。  
 舊。の。敷。よ。り。厚。倉。二。年。を。夫。よ。返。す。と。い。ふ。は。親。子。夫。婦。と。い。ふ。は。二。倍。す。を。  
 り。の。か。と。盡。し。夫。の。物。も。活。業。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。妻。の。又。節。儉。を。宗。と。す。と。  
 飲。食。も。薄。く。せ。れ。ど。毛。より。細。れ。瘦。せ。帯。も。二。三。十。兩。の。金。を。忍。び。  
 小。貸。殖。也。と。い。ふ。も。あ。ら。う。と。い。ふ。は。お。た。り。父。母。が。女。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。  
 と。い。ふ。は。お。た。り。父。母。が。女。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。お。た。り。父。母。が。女。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。  
 め。つ。れ。と。い。ふ。は。お。た。り。父。母。が。女。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。お。た。り。父。母。が。女。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。  
 た。え。と。い。ふ。は。お。た。り。父。母。が。女。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。お。た。り。父。母。が。女。を。削。り。た。れ。ば。二。倍。す。を。

世に  
行色  
松  
公  
橋



夫婦をよそくまてを恨み女児をよそくまてを恨み  
 ひよりのたうま縁一を結せんとおくれなも園花りしよ。まど園一と  
 けしどお且とも暮るもまてがむのいよ。ひはるのとみえ一とまて  
 の父もまて。一とびりいよまど。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 をまて。一とびりいよまど。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 操も不便よりひまがうを移ひ彼女子を。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 のまてまて。園花がわの中をさひす。夫を。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 らぬりのまて。夫婦を命。復速よありとまて。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 とまひぬりぬ。縁故をまて。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 ありの程をまて。生は夫がたま。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 ありの神佛よ。一とびり懼る露るのよ。くれまよ

主のた園の花

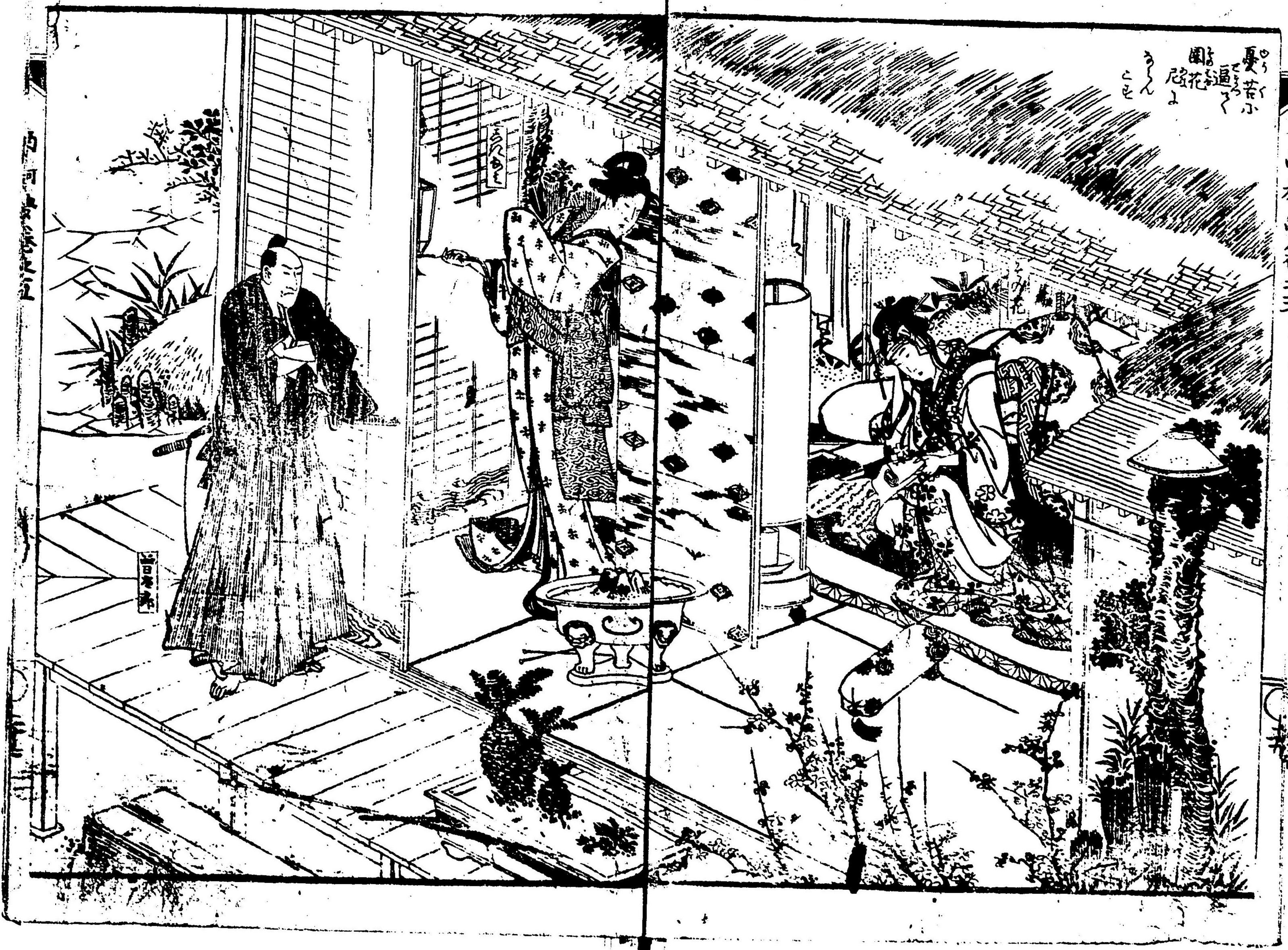
も。浅松典膳が女兒園花。往年まてが。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 始とま。氣を。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 とま。やう。夫と。人。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 惑ひ。忠孝。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 のる。推馴。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 存命。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 ま。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 墓。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 病。一とびり懼る露るのよ。くれまよ  
 胸。一とびり懼る露るのよ。くれまよ

西河





憂うれ々々小  
園の花は過るく  
うん  
こ





人をもむむ記出のハ近道風を吹かせ  
 べ。そのめらぬうと同の園をりて使し〜  
 使はけく〜と女児の顔を〜視て痛し〜  
 面瘦のえゆ〜その見を〜  
 黙止せがむ〜舞くの三拍とやんを伴ひ南入と〜  
 女子入産〜  
 羊本の憤を〜  
 又し〜今宵〜  
 誓つ〜  
 入〜  
 此彼多〜  
 一〜  
 結髪〜

土  
 口  
 奇

女子入産の〜故らんが彼人の良の〜  
 を締〜  
 のげ〜  
 妻の〜  
 君又〜  
 夜を浪速〜  
 ぬ〜  
 夜の鶴夫〜  
 たりや〜  
 の保〜  
 ぬ〜

西

山









布地九郎



間巖  
曾太郎  
不批  
巻

今市全巻

今市全巻

三

却悪の増長。旅客を引剥き。その罪状。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

山下の...

1171

其八蝶九弟ハ七年前ニ奈良を遣放スル。持津河内の  
間ニ袂袖シ到ルところ悪友との交交々々ニ由ル為ニ其  
後ニ里入ホハ憎且び使ウマシバ二人のりともハ縁轡を  
生付ト云ふと耻ト云ふと云々動カバ縁轡を  
去ル。非法の殘を貪リ人ト計較ぬ固ホ是憎とも同憎ハ  
カク痺者ナリ。

三七全傳南河夢卷之五終

122  
17  
26





